

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月11日

事業所名 放課後等デイサービス パリティ

	チェック項目	はい	子どもと ない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		2	2	・少しでも広くなるように、模様替えなどを行っている。	開所時は少人数で問題なく利用できていたが、児童が増えてきた事で狭く感じてきた。今後は引越しを視野に入れて動いていく。
	2 職員の配置数は適切である	2	2		・女性スタッフ、男性スタッフ両方いる。	今後は、専門職の採用を積極的に行って個別での対応を多めに取り入れていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1		・階段などはないので、特に大きな危険性はない。	窓ガラスが熱で割れるケースがあったので、今後は窓ガラス付近に児童が近づかないよう、配慮していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		・事業所内での会議を定期的に行なっている。	事業所内だけでなく、二週間に一度本社会議を開催して事業所の情報を共有して改善に努めている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			・アンケート集計後にホームページにて掲示している。	・指摘された項目は会議の中で共有して改善に努めていく。 ・アンケート結果を事業所のみでの振り返りでなく、法人全体として振り返りをしていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			・アンケート集計後にホームページにて掲示している。	・指摘された項目は会議の中で共有して改善に努めていく。 ・アンケート結果を事業所のみでの振り返りでなく、法人全体として振り返りをしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4			・提携会社、協力会社に協力してもらっている。	同業者にも事業所のイメージなどを聞き、周囲から見た印象を学び、指摘があれば改善していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			・3ヶ月に1回、社内研修を実施し、それ以外にも定期的な研修に参加している。	福祉に関する研修のみでなく、法律に関する勉強会など幅広く実施できている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			・利用者のニーズを反映している。	見学から体験、利用開始までの段階を踏みながら細かな情報をキャッチして、意思決定支援に向けた取り組みを実施している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			・適切なアセスが取れるようにシートを活用している。	書類管理スタッフが定期的に研修へ参加し、スタッフの意見を踏まえて書類の見直しをし、児童、保護者のニーズがしっかり反映されているかチェックしている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・中高生に特化した事業所なので、それぞれの夢、目標に合わせた活動プログラムを取り入れている。	・高校生に関しては就労に向けて実習を重ねていく必要があるが、コロナで受け入れてくれる企業が少なくなった。もっとスタッフが営業に出て実習先を確保していきたい。
12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・中高生に特化した事業所なので、それぞれの夢、目標に合わせた活動プログラムを取り入れている。	・高校生に関しては就労に向けて実習を重ねていく必要があるが、コロナで受け入れてくれる企業が少なくなった。もっとスタッフが営業に出て実習先を確保していきたい。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			・平日は体力づくり、休日は現場実習などと差別化している。	長期休暇の際には、就労系サービスと連携し、現場実習を組む事ができているので引き続き取り組んでいきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			・個別活動、集団活動のシーン別で目標を設定している。	・就労に向けて実習を重ねていく必要があるが、コロナで受け入れてくれる企業が少なくなった。実習先が見つからない場合の計画も必要だと思うので、再度見直して行く。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			午前中の時間で、その日の利用児の状況確認、共有をしている。	会議でしっかりと課題や情報を提示できるように、時間がなくてもその日にメモを取り、ラインなどを活用して報告する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			午前中の時間で、その日の利用児の状況確認、共有をしている。	翌日の会議でしっかりと課題や情報を提示できるように、時間がなくてもその日にメモを取り、ラインなどを活用して報告する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			・日々の記録は漏れなくしっかり記入している。	支援記録に、支援計画目標の枠を設けて日々の記録の際に計画を見ながら記録の記入ができています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			・定期的にモニタを実施し、保護者との共有もできている。	計画相談員の中には、モニタを実施しない方もいるので今後は見過ごすのではなくこちらからアプローチをかけていきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4			・基本的な活動を基準として、事業所独自の取り組みを実施している。	弊社として、基本活動の中でも特に「社会生活や経験の範囲が制限されないようにする」事に重点を置き、障がいのないことも以上の体験に参加できるようにプログラム作りに励んでいる。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			・管理者だけの参加ではなく、他のスタッフも参加できている。	スタッフによって、該当児童の態度が違ったりするので見え方も違う。より細かな情報を会議の中で提供できるよう、今後も管理者以外のスタッフも積極的に参加していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			・学校からだけでなく、保護者からも年間、週間スケジュールを確認させてもらっている。	居残りの有無などで活動内容が変わってきたりするので、イベントなどがある際には事前に保護者との情報共有をして学校への連絡をお願いしている。
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4			現在は医療的ケアが必要な児童がいない。今後、いつでも対応できるように、まずは協力医療機関としっかり連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1		・生活歴を踏まえて、そこに問題があれば相互理解できるように連携できている。	基本的に中学生以上の児童が利用しているので、該当児童の小学生時代に関して確認したい事があれば、保護者や計画相談員と相談しながら確認して行く。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4			・就職先に対して、一緒に面接へ同行し事前に児童の特性を企業に伝えたりしている。	引き続き、高校卒業後の就職の際には企業側にこれまでの児童の取り組みや特性など、細かな情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		・定期的な研修を受けている。	発達センター等が主催する研修会には参加できる範囲で参加しているが、助言等を求める関係性はできていない。今後、関わりを持てるように調整していく。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
機	26		4		・コロナ禍でできていない。	社会性を身につける為にも、多くの人と関わりを持たせることが必要なので、コロナウイルスの状況を見ながら交流の機会を増やしていきたい。
	27	2	2		・自立支援協議会の参加はないが、町が実施する研修等へは参加し、また日々の取り組みを会議等を通して理解していただいている。	自立支援協議会に関してもっと深く知り、連携を図る事ができるように事業所側からもアプローチを仕掛けて行く。
	28	4			・連絡帳、メール、ライン、電話を活用してやりとりができています。	・必要な場合には、モニタリング以外でも保護者との面談をし、今現在の課題や今後の支援の方向性を話しあっている。
	29	2	2		・保護者向けの研修機会（子育てサロン）を設けている。	今年度は、コロナウイルスの影響で毎年恒例のBBQや子育てサロンが予定通り実施できなかったため、来年度はリモートの導入などを検討して実施したい。
	30	4			・契約時に、重要事項説明書や運営規定の説明を行っている。	保護者の中には契約時に読み合わせても、理解できていない場合もあるので契約後も確認しながら保護者が安心できるように、言葉を噛み砕きながら丁寧に説明していく。
	31	4			・例年はBBQや子育てサロンを通してプチ保護者会を開き、その際に悩み相談を行っていたが今年はコロナの影響でできなかった代わりに子育てに関するお便り配布をした。	来年度はコロナが落ち着いたら積極的に保護者交流や悩み相談会、子育てサロンを実施していきたい。万が一に備えて、zoomを活用したりリモート勉強会、悩み相談会ができるように準備していく。
	32	4			・例年はBBQや子育てサロンを通してプチ保護者会を開き、その際に悩み相談を行っていたが今年はコロナの影響でできなかった代わりに子育てに関するお便り配布をした。	来年度はコロナが落ち着いたら積極的に保護者交流や悩み相談会、子育てサロンを実施していきたい。万が一に備えて、zoomを活用したりリモート勉強会、悩み相談会ができるように準備していく。
保護者への説明責任等	33	4			・苦情があった際には迅速に対応し、改善に努めている。	苦情などがあった際には事業所のみでの解決ではなく法人全体にもしっかりと報告し、早期の解決に努める。
	34	4			・毎月、事業所便りを配布している。	便りだけでなく、ブログやラインなど時代に合わせて対応していきたい。
	35	4			・職員の入社時、退社時には誓約書を書いている。	ブログなどのネットに児童の様子を載せる際には、個人情報漏洩しないよう細心の注意を払っている。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・タブレットや筆談を活用している。	視覚や聴覚障害がなくても、障害の特性上気持ちを言葉にできない児童もいるので様々なツールを活用している。
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1		・地域に認めてもらえるよう、イベントはできなくてもゴミ拾いなどを実施している。	今年はコロナウイルスの影響で外部との接触ができなかったため、来年度は地域住民を招待し、地域に根付いた支援ができるよう取り組んでいく。
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			・各種マニュアルを完備しています。	社会情勢が変わったり、避難先が変わることもあるので定期的に訓練を実施しています。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・年に2回、避難訓練を実施しています。	引き続き、消防に届出を提出した上で実施して行く。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・外部講師を活用したり、他の研修に参加など、年1回以上は参加している。	管理者だけの参加ではなく、スタッフ全員が同じ意識を持って取り組めるようになるべくみんなで参加できるよう努める。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			・しっかりと契約書に記載している。	児童の特性を事前に個別支援会議の中で把握し、保護者様へ対応を確認する。引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、児童の特性を理解しておく。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			・主治医の指示だけでなく、フェイスシート等を活用して把握している。	児童のアレルギー情報などを表にして見える化し、弁当購入時やおやつ提供時にはしっかりと注意していく。
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・送迎車での安全のために車両用のヒヤリハットも備えている。	ヒヤリハットを書くだけでなく、しっかりと振り返りや改善ができるようにスタッフ間で共有していく。